

利用者の情報一元管理

高齢者施設 体調などスマホで記録

電子機器メーカー「ミナミ」(本社・長野県飯田市)の八戸工場が、高齢者施設の利用者情報を一元管理するソフトウェアを開発した。高齢者の



ミナミが開発した介護施設向けのソフトウェア。見心園で試験的に運用を開始した

21日、階上町

電子機器メーカー「ミナミ」八戸工場 ソフトウェア開発、運用開始

体調や食事をスマートフォンで記録し、情報共有する仕組み。これまで紙に手書きしていた記録をデジタル化することで、スタッフの負担軽減につなげたい考えだ。松下武志工場長は「DX(デジタルトランスフォーメーション)技術で福祉分野に貢献したい」と思っていた。困っている方に使ってもらいたい」と述べた。同社は2007年に八戸工場を開発。開発の際は、工場で製品データの記録に用いるシステムを応用した。階上町の特別養護老人ホーム「見心園」と協力し、現場の声を取り入れた。

21日、見心園で試験的に運用を開始し、八戸工場の職員が介護職員に使い方を説明した。

ソフトは体調や体重、食事、日中の行動などを文字や音声、写真で記録可能。見心園は、これまで利用者情報を紙に記入して管理しており、記録をさかのぼるのが困難になっていたという。坂本憲子園長は「困っていた。試験運用を通し、より使いやすいものにしてほしい」と期待を寄せた。

松下工場長は「地元企業なので、トラブルにすぐ対応できる。各施設に合わせたカスタマイズも可能」と強調。「これを機に福祉分野に関わりたい。介護現場では職員の身体的負担も大きいので、軽減できるシステム開発も検討したい」と展望を描く。(里村静)